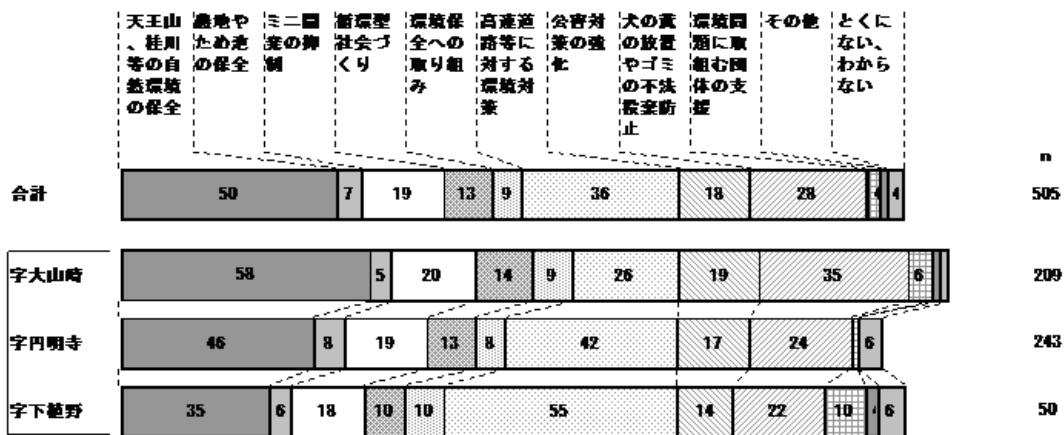


(2) 環境保全の施策 (問26-MA/2つまで)

- ・「町の環境を保全していくためとくに重要だと思うこと」は、回答が多い順に、「天王山、桂川等の自然環境の保全」が50.2%、「高速道路とインタージャンクションに対する環境対策」が36.3%、「犬の糞の放置やゴミの不法投棄の防止」が28.4%、「ミニ開発の抑制」が19.4%、「公害対策の強化」が17.7%、「リサイクル、リユース、リデュースなど循環型社会づくり」が12.7%で、その他は、「クリーンエネルギーの利用などの環境保全への取り組み」8.7%、「農地やため池の保全」6.9%、「環境問題にとりくんでいる団体の支援」4.2%と少ない。
- ・地区別にみると、かなり違いがある。
 下植野地区は、「高速道路とインタージャンクションに対する環境対策」が55.1%（平成16年度調査64.8%）ととくに多い。「公害対策の強化」は、平成11年度調査では43.1%、平成16年度調査では20.4%、今回は14.3%と減少している。
- ・円明寺地区では、「天王山、桂川等の自然環境の保全」が46.0%と多い。また、「高速道路とインタージャンクションに対する環境対策」については、平成11年度調査では53.2%、平成16年度調査では46.9%、今回は41.8%と減少している。
- ・大山崎地区では、「天王山、桂川等の自然環境の保全」が58.3%と多く、次いで「犬の糞の放置やゴミの不法投棄の防止」が35.0%と多い。「高速道路とインタージャンクションに対する環境対策」は25.7%と少ない。

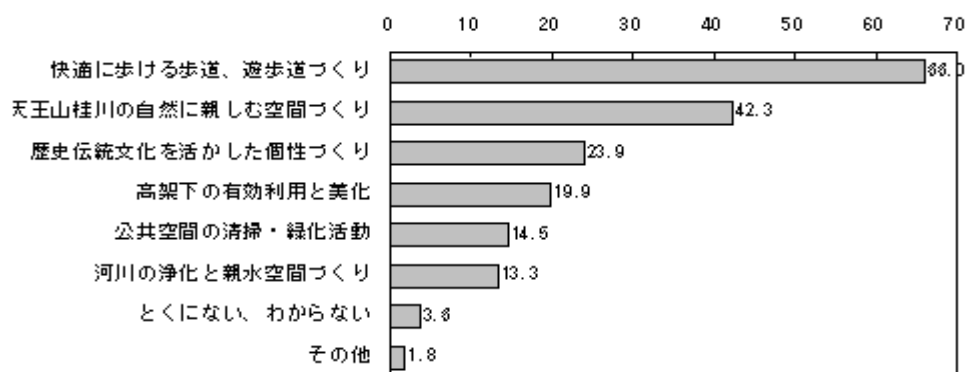
図表6-2 環境保全の重要施策



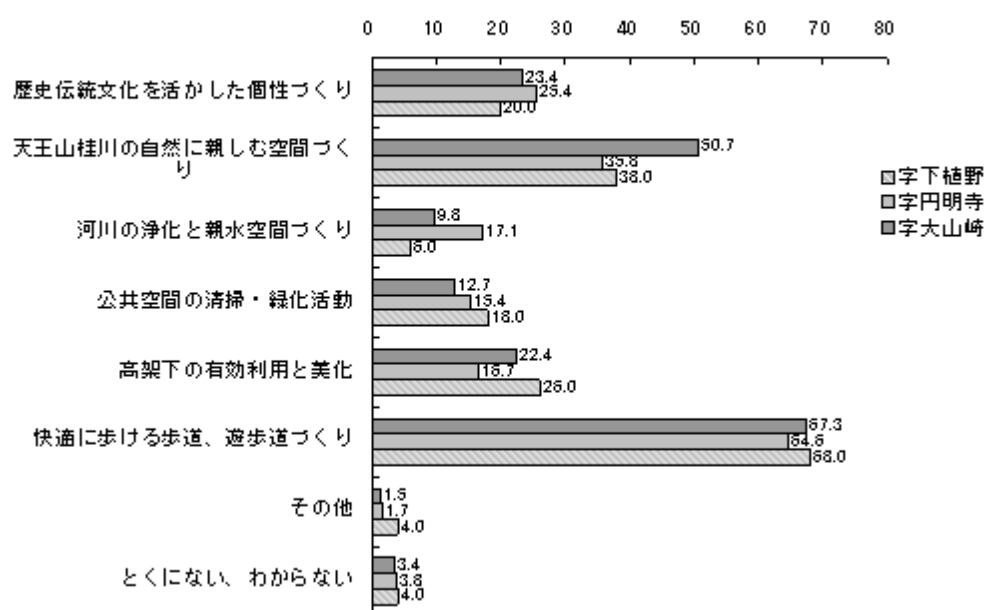
(3) 快適でうるおいのある生活環境づくりの施策（問27-MA/2つまで〇）

- ・ 快適でうるおいのある生活環境づくりのために、とくに力を入れる必要がある施策については、「快適に歩ける歩道、遊歩道、緑道づくり」が66.0%と非常に多く、以下、回答が多い順に「天王山や桂川の自然に親しめる空間づくり」42.3%、「歴史や伝統文化を活かし個性をゆたかにする」23.9%、「高架下の有効利用と美化」19.9%、「公共空間の清掃・緑化活動」14.5%、「河川の浄化と親水空間づくり」13.3%となっている。
- ・ 平成16年度調査は選択肢の項目が異なるが、「河川の浄化、生物生息空間の保護など」が26.8%で最も多く、次いで「天王山の保全と活用」26.0%、「遊歩道・緑道の整備」25.1%だった。大きな変化として、「快適に歩ける歩道、遊歩道、緑道づくり」への回答が大きく上昇していることがわかる。
- ・ 地区別では、3地区ともに「快適に歩ける歩道、遊歩道、緑道づくり」が最も多く、大山崎地区は「天王山や桂川の自然に親しめる空間づくり」が50.7%とかなり多くなっている。

図表6-3 快適でうるおいのある生活環境づくりの施策（地区別）



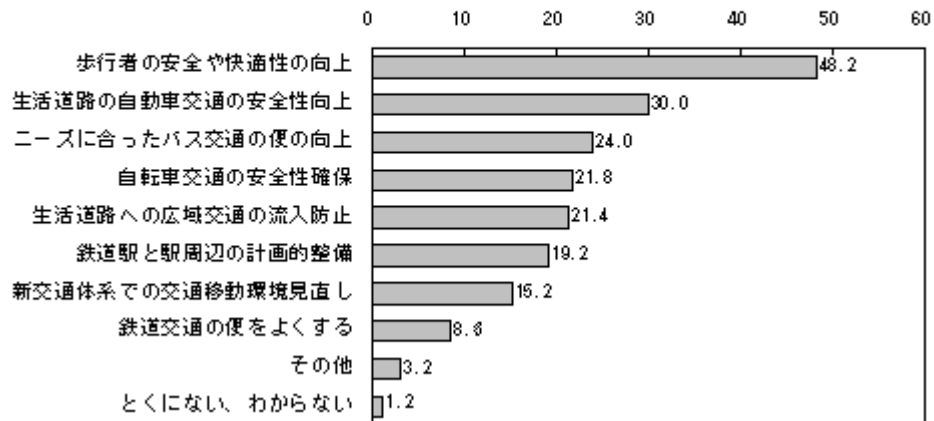
(地区別集計)



(4) 交通環境をよくする施策（問28-MA/2つまで○）

- ・町の交通事情をよくするためにとくに重要だと思う施策については、回答が多い順に「歩行者の安全や快適性を高めること（歩道の段差解消と交通規制等）」48.2%、「生活道路の自動車交通の安全性を高めること」30.0%、「利用者のニーズに合わせてバス交通の便をよくすること」24.0%、「自転車交通の安全性を確保すること」21.8%、「生活道路への広域交通の流入防止（通過交通と生活道路の分離）」21.4%、「鉄道駅と駅周辺を計画的に整備すること」19.2%、「新しい交通体系に合わせた交通・移動環境の見直し」15.2%、「鉄道交通の便をよくすること」8.6%となっている。
- ・平成16年度調査では、「歩行者の安全や快適性の確保（歩道の整備と交通規制等）」が56.6%でもっとも多く、次いで「生活幹線道路の拡幅・整備」が35.4%、「バス交通の便をよくする（町内と周辺地域の巡回バスの新設等）」が34.0%、「通過交通と生活道路の分離」が23.0%、「鉄道駅および駅周辺の交通施設整備」が17.3%、「鉄道の便をよくする」が14.3%だった。今回の調査では、新たに「自転車交通の安全性を確保すること」と「新しい交通体系に合わせた交通・移動環境の見直し」を選択肢に加えたため、「歩行者の安全や快適性を高めること（歩道の段差解消と交通規制等）」「利用者のニーズに合わせてバス交通の便をよくすること」「鉄道交通の便をよくすること」などへの回答が減少していると考えられ、全体としてそれほど大きな変化はみられない。
- ・地区別にみると、大山崎地区は、「歩行者の安全や快適性の確保」が55.8%で、町平均より7.6%多い。次いで「生活幹線道路の拡幅・整備」が41.4%で、町平均より6%多い。「バス交通の便をよくする」は29.6%で、4.4%少ない。
円明寺地区は、町平均とほぼ同様。
下植野地区は、「バス交通の便をよくする」が44.0%で町平均より20.0%多く、次いで「生活道路への広域交通の流入防止」30.0%で、町平均より8.6%多くなっている。「歩行者の安全や快適性を高めること」は30.0%。

図表6-4 交通環境を良くする施策



(地区別集計)

